

もっと、 こども まんなか

education column

いま、学校教育を取り巻く環境は、大きく変わってきています。こどもたちの未来のため、教育 DX の推進や不登校児童生徒への支援、部活動の地域移行、官民一体型学校など、武雄のこれからの教育について、一緒に考えてみませんか？



VOL.03

「できたー！」ガッツポーズで1日をスタート

朝8時すぎの市内の小学校では、「できたー！」と、元気な声が響きます。四字熟語を元気に読み上げたかと思えば、テンポ良く机を動かして4人グループに。手持ちのブロックで複雑な図形を完成させます。友だち同士で教え合い、ともに完成を喜ぶ姿も。地域の方もボランティアで教室に入り、こどもたちのドリルに花まるをつけ、ねぎらいの言葉をかけてくれます。平成27年、武雄市の小学校で官民一体型学校である「花まる学園」が開校しました。民間の学習塾と公立学校のメリットを融合させた、武雄市独自の教育スタイル。今年度で開校10年の節目となります。

他の人と比べない「自分に勝つ」が基本ルール

武雄花まる学園には、「自分に勝つ」という基本ルールがあります。こどもたちが20問の計算問題を解き終わると、先生が「昨日より早くできた人ー？」とたずねます。こどもたちは、勢いよく手を挙げながら、「昨日より2秒早かった！」「最高記録は44秒！」と満面の笑顔です。他の人と比べないから、やる気がそがれない。楽しみながら進められるのがメリットです。また、こどもたちの「思いやりの心」も高まったと感じています。

官民一体型学校「武雄花まる学園」 開校から10年

～次のステージ「武雄のこどもまんなか教育」～

これは朝の花まるタイムの「助けあいの時間」や、「青空協室」の効果であると考えます。青空協室では、1～6年生を交えた縦割りグループで、校内に隠された課題をクリアしていきます。他学年同士で助けあう経験を通して、他者を思いやる心が養われていきます。

※青空「協」室は協働学習を意味しています。

個性や成長に合わせ柔軟に取り入れていく

学校現場ではこれまでの10年間の経験から、多くのことを学びました。花まる学園に一定の効果を認めつつ、「学校や学年の実情に合わせて、柔軟に取り入れる必要がある」との意見もありました。市では、こども一人ひとりの個性や成長に合わせた「こどもまんなか教育」を進めています。次のステージである3年間は、花まる学園のメソッドを、もっと柔軟で、こどもたちのさまざまなニーズに応える方法で、学校ごとに方針を決めていきます。（下図参照）
武雄のこどもたち一人ひとりが、自分らしく輝けるよう全力でサポートしてまいります。



武雄市教育委員会
新しい学校づくり教育監 林 正昭

令和7年度以降の官民一体型学校の在り方に関する意思決定フロー

